

2025年度入試

入学試験問題集

【国際学部 国際学科】



東京成徳大学

TOKYO SEITOKU
UNIVERSITY

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	3
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	4
国際学部特待生入試 英語ライティング	5
一般選抜 D日程入試 小論文	6
出題意図.....	7

※一般選抜 C 日程入試は、志願者がいなかったため、実施していません。

「一般選抜 A 日程・B 日程」の問題は、
「2025 年度入試問題集 一般選抜
A 日程入試・B 日程入試・C 日程入試」
に掲載しています。

●総合型選抜 9月入試

【小論文】（試験時間：60分）

次の文章を読んで設問に答えなさい。

- 問1 下線部(1)「誰でも知っている当たり前のこと」と同様の意味の表現を、文中から2文字と7文字で抜き出しなさい。
- 問2 下線部(2)「当たり前」とは常に揺れ動くものと同様の意味の表現を、文中から32文字で抜き出しなさい。
- 問3 相手とのコミュニケーションにおいて、自分の「当たり前」が相手に通じていないと感じたとき、あなたはどのように対応しますか。具体的な場面を想定してあなたならどのように対応するか、あるいは、実際の体験談などを含めて500字以内で述べなさい。

10年ほど前から、ある大学で文章の書き方を教えている。講義で毎年、学生に問いかける質問がある。

「テレビの野球中継を見た留学生から、『これはどういうスポーツですか?』と聞かれました。留学生は日本語に堪能ですが、野球をまったく知りません。どう説明しますか?」

野球好きの学生でも意外に口ごもり、こんなやりとりになることが多い。

学生「9回を終えて得点の多い方が勝ちます」

筆者「では点はどうしたら入るのでしょうか?」

学生「打者が、投手の投げるボールを打って、ベースを、ええと、ベースというのは……あれ?」

野球のルールは難しい。サッカーやテニスなど多くの球技では、ボールが籠に入ったり地面に触れたりすれば得点になるが、野球では得点するのはボールでなく人だ。点が入る条件や試合進行の規則は複雑で、ルールは1冊の本になるほど膨大でもある。

説明に手間取るのは当然なのだが、幼少期から慣れ親しんで自然にルールを覚えるためか、言語化を試みて、初めてその難しさに気づく人が多い。

同じ講義で、漫画の読み方を問うこともある。

ある漫画の見開き2ページを表示して、どのコマからどの順序で読むかを尋ねると、こちらはどの学生も正解するが、なぜその順序かを問うと説明できない。これも、知らず知らず身につけているからだ。

これらの質問の意図は、我々のコミュニケーションが、いかに多くを共通の知識基盤、⁽¹⁾「誰でも知っている当たり前のこと」に依拠しているかを認識してもらうことにある。「常識」と言い換えてもよい。

ただし、誰かにとっての「当たり前」が常に万人の「当たり前」とは限らない。筆者が所属するサークルで、準備運動として「ラジオ体操」を行う。説明不要で誰でもできるからだ、ある時、飛び入りの外国人参加者が戸惑う姿を見て、「ラジオ体操が誰でもできるのは日本だけ」という事実、改めて気がついた。

我々の「当たり前」はどのようにして形成されるのか。例えばお互い顔見知りばかりの小さな共同体なら、生活の中で自然にできあがることだろう。

社会の規模が大きくなり、顔見知りでもなければ縁もない人々とも一緒に社会を構成するとなればどうか。政治学者ベネディクト・アンダーソンは、著書「想像の共同体」の中で、印刷技術が発達し、出版産業が成長して、新聞や書籍を通じて人々が同じ言語で同時に情報を共有するようになったことが、国民意識の形成に影響したと論じた。メディアと情報が人々に「当たり前」をもたらした、ともいえそうだ。

ただし、日本で国民の大半がメディアを通じて同じニュースに接し、同じ本を読み、同じ歌を聴いていたのは昭和時代まで。今や人々が接するメディアも情報も細分化する一方だ。

では多様な考えが共存する世の中になったかといえば、むしろ自分の知識だけを「当たり前」と信じ、異なる考えを排斥しようとする傾向も目立つ。インターネット上でフィルターバブルなどと呼ばれる、似た意見ばかり目に入る現象の影響も大きいだろう。

筆者の講義では、「読み手と何を共有していないかを意識し、そこを補うように書けば伝わりやすくなる」と教えている。

「当たり前」の例に野球や漫画を挙げたものの、今や野球をしたことがない、あるいは漫画はスマートフォンの縦スクロールで読む、という若者もいる。⁽²⁾「当たり前」とは常に揺れ動くもの、との認識を持つことこそ肝要なのだと思う。

●総合型選抜 10 月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

次の文章を読んで設問に答えなさい。

- 問 1 EU における理想的な多言語話者人材とはどのようなことができる人材ですか。「人材」という言葉につながるように文中から 20 字で抜き出さない。
- 問 2 言語はコミュニケーションのための道具ですが、それ以外にどのような意義があると述べられていますか。50 字以内で記さない。
- 問 3 本文で示されている多言語教育の意義について、あなたの考えを 500 字以内で述べなさい。

EU（欧州連合）は、言語の多様性を重視する多言語主義に基づき、母語のほかに少なくとも二つの外国語（EU 諸国で使用されている言語）を幼少期から学ぶべきである、という言語政策の方針を 2002 年に決定しました。

EU の政策執行機関である欧州委員会は、科学的根拠に基づいた政策や指針を立てるために、幼少期の子どもを対象とした第二言語習得や外国語教育などの分野における専門家を計 28 カ国から集めた組織を設置し、さらに国際機関である UNESCO（国連教育科学文化機関）や OECD（経済協力開発機構）とも連携しています。

この欧州委員会が 2011 年に公表した指針案内書では、幼少期からの外国語教育の必要性について、「言語や文化の多様性への関心を高めることにより、ほかの言語や文化を理解・尊重する態度を養うと同時に、自文化の価値や自らのアイデンティティの認識を高める」と説明されました。

よって、EU における理想のバイリンガルやマルチリンガルは、単に外国語に堪能である人材ではなく、必要に応じて母語と外国語を使い分けられる人材です。

言語の多様性を守るには、母語や母国文化の価値を子どもたちに教える必要があります。そして、EU 諸国の政治・経済統一やグローバル化に対応できる人材を育てるためには、外国語を教える必要があります。この二つの目標を実現させるためには、幼少期からの教育が必要であるという結論を出したのです。

また、UNESCO による「存続の危機にある言語」の定義づけを見ると、ある言語が存続の危機に直面し始めるときは、子どもたちがその言語を使わなくなったとき、子どもたちがその言語を学ばなくなったときです。

子どもたちは、大きくなるにつれて、社会環境を通じ、どの言語が自分の生活や将来にとって重要かを実感するようになります。

その前に、世界中にさまざまな言語が存在すること、自分の母語が受け継がれていくことの素晴らしさを学んでいなければ、「自分にとって役に立たない」、「自分にとって重要でない」言語は、たとえ母語であっても学ばなくなってしまいます。

こういった観点からも、「幼少期の言語教育」は極めて重要なのです。

言語は、良い教育を受けるために、良い会社へ就職するために存在するわけではなく、それらのためだけに学ぶものではありません。

言語は、文化であり、価値観であり、その話者たちの歴史であり、人類にとっての重要な遺産です。

しかしながら、英語を第一言語として使用する人がいる国は世界 196 カ国の 6 割を占める 118 カ国にも及び、さらに普及が進むことは明白です。

よって、世界の共通言語として英語の重要性が増せば増すほど、言語の多様性を守りながらグローバルに活躍できるバイリンガルの価値が世界中で高まり、そのような人材を育てる外国語教育が必要になるのではないのでしょうか。

日本語は、ほぼ日本でしか話されておらず、話者人口は中国語の 10 分の 1、スペイン語や英語の 3 分の 1 に過ぎません。

一方で、2018 年 6 月に閣議決定された外国人材の受け入れ拡大に象徴されるように、日本が海外へ進出するグローバル化のみならず、海外の人材や企業が日本に流入してくる国内のグローバル化も進んでいます。

少子高齢化問題がこの動きをさらに強めており、近い将来、「日本人だけの日本語モノリンガル国家」という幻想は崩れるでしょう。

そのような環境の中で、日本語を守りながら英語を使って日本の経済や文化を発展させていくバイリンガル人材は必ず必要となります。

よって、単なる英語教育ではなく、日本語を守る、ひいては言語の多様性を守るための教育としてバイリンガル教育の価値を再認識する必要があり、そのような教育環境を子どもたちに用意することは、日本人にとっても世界人類にとっても極めて重要なのではないのでしょうか。

●総合型選抜 12月入試

【小論文】（試験時間：60分）

次の文章を読んで設問に答えなさい。

- 問1 「エビデンス」を使う際に問題だと考えられている使い方はどのようなものですか。12字で抜き出しなさい。
- 問2 「分かりやすい答えを求める人も多い」社会とはどのような社会ですか。19字で抜き出しなさい。
- 問3 どのようなことを尊重すると充実した議論や対話ができるとあなたは考えますか。体験談などを含めて500字以内で述べなさい。

「エビデンス」という言葉が日常会話でも当たり前に使われるようになりました。文芸評論家の鴻巣友季子さんは、「自分こそ正しい」というバトルのツールになっている面がある、と指摘します。話を聞きました。

科学的根拠は重要ですし、私も大学の授業で「エビデンスを示すように」と言っています。ですが、誰かの意見に「エビデンス」を求めたり、自分の「エビデンス」を主張する際に、それが相手を言い負かす目的だけになったりしている場合があります。そういう風潮には疑問を感じています。

SNSでは、強い言葉で、短時間で、分かりやすく立場を表明する人に支持が集まります。何かが起きた時、すぐに明確な言葉を発信する人が「バズる」。そしてその際に根拠として何らかのデータなどを提示すると、「エビデンスがある」として、その意見の正しさが裏打ちされるかのような効果があります。

目的化した「バズる」

私が書いている書評や映画評の世界でも、「速く」「分かりやすく」が起きています。人目を引く解釈で、「これはこういう作品だ」とぱっと提示する人がウェブ媒体などで重宝される。私には「バズるように文章を書いている」というより、「バズるように作品を読んだり見たりしている」人が多いように見えます。「バズる見方」が先にあり、他の見方を切り捨ててしまっているのではないのでしょうか。

分かりやすい答えを求める人も多い。小説などの読者レビューにはしばしば、「作者が何を言いたいのか分からない」と書かれます。たぶん昔から同じような思いを抱く人はいたのですが、誰もが情報発信できるようになり、「とりあえず答えが欲しい」という欲求が可視化された。そんな様子を見てみると、答えを決めなくて耐える、分からなさを耐えることは、とても精神力がいるのだと感じます。

複雑なものを複雑なまま受け止められない社会では、物事は単純化され、短時間に善悪や正しさが決まります。とたんに「お前が悪い」という攻撃になる。

遠のく対話

さらに、弱い立場の人たちが抱える「抑圧されているけどうまく言い表せない」という状況をびたりと言い当ててくれた「もやる」「マウンティング」「トーンポリシング」などの言葉も、あらゆる場面に浸透して、攻撃に使われるようになりました。私はSNSで「昔は～だった」と書いただけで「マウント」と言われました。「自分が正しい」「お前は間違っている」というバトルのツールが増大し、エビデンスの突きつけ合いになるのは不毛だと思います。

分からなさや違和感を抱えながら、ぐるぐると回るだけで答えは出なくとも、他者と長い時間をかけて話すのが対話のほうです。そういう土壌が失われ、不寛容が覆っている。その中で追い詰められる人たちが増えていくのではと懸念しています。

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験時間：60 分）

次の文章を読んで設問に答えなさい。

問 1 下線部「第 3 の選択肢」が指すものを 13 字で抜き出さなさい。

問 2 アルゼンチンにおいてインクルーシブ・ランゲージに対する反発が根強い理由について 30 字以内で記しなさい。

問 3 言葉を男女で分けることについて、日本語における具体例を挙げたうえで、あなたの考えを 500 字以内で述べなさい。

突然だが、「友達」を意味するスペイン語はご存じだろうか。

正解は amigo（アミーゴ）だ。

スペイン語に詳しくない日本人でも、多くの人が耳にしたことがある単語だろう。

だが「女友達」の場合、amiga（アミーガ）に変化することはあまり知られていないのではないか。スペイン語の「男性形」「女性形」だ。

日本語や英語が母語の人にとってはなじみが薄いが、スペイン語やフランス語、ポルトガル語などのラテン語系言語では、多くの名詞、形容詞が男性形、女性形に分かれている。

スペイン語では、例えば「私の男友達」はmi amigo、「女友達」はmi amigaだ。「背が高い男の子」はniño（男の子）alto（高い）だが、「女の子」の場合はniña altaと形容詞まで女性形に変わる。

ところが近年、言葉を男女で分けることを避ける「インクルーシブ・ランゲージ」（包摂的言語）が一部で使われているという。一体どういうことなのか。「南米のバリ」とも呼ばれるアルゼンチンの首都ブエノスアイレスに向かった。

アルゼンチンでは 1980 年代ごろからインクルーシブ・ランゲージを使う人がいた。だが、一気に認知されたのは 2018 年ごろ。性自認が男女いずれでもないと感じるノンバイナリーなど多様な性のあり方が知られるようになり、人工妊娠中絶の条件緩和を求める市民運動も起きた。女性の権利向上を訴える団体が、中立化した言語を積極的に使用するようになった。

フェミニズム団体の代表を務めるマリア・アルカラスさん（38）は、以前からスペイン語のある原則に強い違和感を覚えていた。

スペイン語では複数人のグループを指す際、そのグループに男性が 1 人でもいれば原則として男性形を使用する。例えば 1 人の男性と 99 人の女性がいるグループでも、todos になる。

「女性の方が多い集団を指す場合でもなぜ男性形なのか。言葉で男性、女性どちらが優位というのはないはず。言葉を男女で分けたくない時に、第 3 の選択肢があって良いと思う」

とはいえ、世界でインクルーシブ・ランゲージを日常的に使用している人は少数派だ。アルゼンチンでも反発は根強い。

その主張の根拠が、スペイン語の権威である「スペイン王立アカデミー」（本部・マドリード）が否定的なことだ。幹部のサンティアゴ・マチャド氏は地元メディアの取材に、「スペイン語はすでに包摂的な言語で、男性優位でも何でもない」と語っている。

ブエノスアイレス市は昨年 6 月、学校教育の場でインクルーシブ・ランゲージを教師が教えてはいけないと規定した。保護者から反対意見などが強かったためだという。

市教育局長のソレダド・アクーニャ氏は朝日新聞の取材に対し、例えば「生徒」を意味する alumno（アルムノ）、alumna（アルムナ）をジェンダーレスで言いたい場合、「教室にいる人」（quienes están en el aula）と置き換えて使うことができると主張する。

「インクルーシブ・ランゲージ全般を否定するものではない。ジェンダーレスで文章を作りたいのであればいくらかでも代替策がある。だが幼少期の子どもたちが正しいスペイン語を覚えるのは学校の責任だ」

男性形、女性形がない日本語を母語として育った私にとって、この問題は身近な出来事とは言えない。だが思い返せば、「男友達」「女友達」という言葉はよく使う。果たしてその際も性別を言う必要がどれだけあるのだろうか。南米の街で考えさせられた。

●国際学部特待生入試

【英語ライティング】（試験時間：30 分）

According to Mynavi's 2024 survey, 26.5% of Japanese high school students are working part-time. What do you think of having a part-time job while in high school? Give an example of at least one advantage and one disadvantage of working part-time. You should write 200-250 words.

●一般選抜 D 日程入試

【小論文】（試験時間：60 分）

問 1 下線部（ア）～（オ）の漢字の読み方を書きなさい。

問 2 下線部（1）「我」を捨てると、同じような姿勢を表している部分を 3 箇所、対照的な姿勢を表している部分を 3 箇所、それぞれ文中から抜き出さない。

問 3 どのような学習活動をすることで、多様な価値観を尊重しつつ個性を磨けるようになると思いますか。あなたの経験などを踏まえて 500 字以内で述べなさい。

私自身が親世代になった時、今も住まいする地域で、ある日は浴衣^{ゆかた}だったり、ある日はお姫様の出で立ちだったり通学する、気になる小学生がいた。その子のただならぬ眼力や、自分の子供の頃の記憶も重なってか、「ナカナカなもんだ!!」と思いつつ、「いじめられていないだろうか……」と心配をしていた。個性個性と言いながらみんなと一緒に指向する、そんな時代になっていたからだ。彼女が成人した頃に、バス停での短い会話ではあったけれど、その子のお母様から、当時の校長先生から「ドイツでは（ア）歓待されるんですが……云々」と言われていたこと、現在ベトナムにいることなどを伺って、彼女自身を貫いて生きていることを想像し、他人ながら何か安堵にも似た気持ちになった。

娘の小学一年生の初めての授業参観、「美術」でのこと。配られた業者渡りの工作キットを使って紙のカバンを作るという内容。手際よく、ハサミや糊^おを使える子が小綺麗なものを作れるだけという授業に啞然としながら、初っ端^{しよ ばな}からモンスターペアレントの烙印^おを捺^ためられることを躊躇^{ためら}って、私は何も言わずに過ごしてしまった。「他者の意見と違っていても発言しない方が無難にすごせることを学んで、自分の思っていることを表現することが少なくなっている」、そんな記事をどこかで読んだっけ……。

日本では「我が強いこと」はどちらかというと、我儘^{わがまま}、自分勝手と同じように扱われて、あまり良いことのように受け取られてこなかったきらいがある。「我田引水」とか「我を張る」とか、「無我の境地」とか、⁽¹⁾「我」を捨てることが美德として尊重されてきた。自分の考え、意見をもつことと、いわゆる我を捨てることは同じ意味ではないはずだけど。自分を世の中に適合させるタイプの人間よりも、そこからはじかれた異分子の方が世の中を改革する⁽⁴⁾ 突破口を開いてきたようにさえ思う。

アフガニスタンで山の学校を開いて支援している写真家・長倉洋海^{ひろみ}さんの映画「鉛筆と銃 長倉洋海^めの眸」の中で、村はずれにある願いの叶う樹に向かう少女が言っていた。

「何を願うの？」

「貧乏な人たちがちゃんと食べられますように」

生活を支えるための重要な働き手である子供たちは「学校に行って勉強がしたい」と口々に言う。仕事を終わると二時間かかっても学校に向かって山道を駆けて行く。

政治がいわゆる大企業にぴったり寄り添って存在するような国では教育も産業になって、多くの教育機関が受験のための点をとる方法を教える場になってしまった気がする。情報も手伝って、権力に都合の良い仕組みが巧みに作られ、もともと色々な形をしていたはずの「我」は「右向け～右!」と号令にすぐ従ってしまう、管理しやすい形に整えられていくのだろう。学校は自分で考えずに号令に従ってしまう効率良く働くロボットを作る工場ではないはずだけど。ちょっとかじり読みした本の中で、二十世紀の思想家ジョン・デューイが「生涯の⁽⁷⁾ 究極的な目的は、商品の生産にあるのではなく、対等の立場で互いに連帯する自由な人間を生み出すことにある」と言っていた。「子どもたちを歓待し、承認し、祝福すること」「教育の本質は自学自習である」「私たちにできるのは子どもにおける「学びの発動」を⁽¹⁾ 忍耐強く待つことだけ」と言う内田樹さんの言葉にも深く^(オ) 納得する私である。みんな各々成長のスピードや密度が違っているのだから。

出典：川端知嘉子「ガガの我・各々の我」『図書』906号、岩波書店、2024年6月号

●出題意図

総合型選抜 9月入試【出題意図】

1. 問題文選定理由

この試験問題では、我々のコミュニケーションがその多くを共通の知識基盤に依拠している一方で、誰かが「当たり前」と思う事柄が必ずしもすべての人にとってそうではないということについて志願者はどのように考えるのかを問うことにより、本学部が目指すグローバル人材としての資質を測る。

2. 内容理解

我々のコミュニケーションは多くを共通の知識基盤、「誰でも知っている当たり前のこと」に依拠している一方で、誰かにとっての「当たり前」が常に万人の「当たり前」とは限らず、「当たり前」とは常に揺れ動くもの、との認識を持つことこそ肝要であるという筆者の主張について、志願者が正しく理解しているのかを問う。

3. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

【解答例】

問 1

常識（2 字）、共通の知識基盤（7 字）

問 2

誰かにとっての「当たり前」が常に万人の「当たり前」とは限らない。（32 字）

総合型選抜 10月入試【出題意図】

1. 問題文選定理由

この試験問題では、EU における多言語主義に基づく言語政策である多言語教育（バイリンガル / マルチリンガル教育）の意義や重要性、及び日本におけるその適用について、志願者はどのように考えるのかを問うことにより、本学部が目指すグローバル人材としての資質を測る。

2. 内容理解

EU で進められている多言語主義に基づいた言語政策では、言語や文化の多様性を守るために、母語以外の言語を学ぶことの重要性を打ち出している。一方、英語の普及が進み、その共通言語としての重要性が高まっていることも事実である。グローバル化が進む中で、母語以外の複数の言語を身につけることの意義や重要性についての筆者の主張を、志願者が正しく理解しているのかを問う。

3. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

【解答例】

問 1

必要に応じて母語と外国語を使い分けられる（20 字）（人材）

問 2

言語は、文化であり、価値観であり、その話者たちの歴史であり、人類にとって重要な遺産である。（45 字）

総合型選抜 12月入試【出題意図】

1. 問題文選定理由

この試験問題では、現代のコミュニケーションに見られる単純化や不寛容化などの傾向に対して、議論や対話をすることの大切さについて志願者はどのように考えるのかを問うことにより、本学部が目指すグローバル人材としての資質を測る。

2. 内容理解

現代のコミュニケーションにおいて「エビデンス」は自分を正当化したり、相手を言い負かしたりするだけのツールとして用いられることがある。また、曖昧さへの耐性や寛容性といった態度の欠如も懸念されている。必ずしもすべての物事を単純化できるわけではない現代社会で、時間をかけて対話をする意義について、志願者が正しく理解しているのかを問う。

3. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

【解答例】

問1

相手を言い負かす目的だけ（12字）（に使う）

問2

複雑なものを複雑なまま受け止められない（19字）（社会）

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

1. 問題文選定理由

近年、グローバル化の進展とともに多様性を認めるかどうかについて議論が盛んになっているが、この試験問題ではインクルーシブ・ランゲージをめぐる議論を通して志願者はそれをどのように考えるのかを問うことにより、本学部が目指すグローバル人材としての資質を測る。

2. 内容理解

近年、ラテン語系言語でインクルーシブ・ランゲージが用いられるようになった。男性優位の社会構造やジェンダーの視点から言語のあり方を疑問視したにもかかわらず、本来存在しない言い回しを理由に違和感や反発を覚える人々が多く、本質的な議論ができない現状がある。インクルーシブ・ランゲージを用いる意義や重要性などについて志願者が正しく理解しているのかを問う。

3. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

【解答例】

問1

インクルーシブ・ランゲージ（13文字）

問2

スペイン語の権威の「スペイン王立アカデミー」が否定的だから（29字）

インクルーシブ・ランゲージは正しいスペイン語ではないから（28字）

国際学部特待生入試【出題意図】

ライティングのテーマとしては、高校生が比較的容易に考えを述べられる「アルバイト」とした。英語の語彙、語法、文法に関わるスキルや、表現力、パラグラフ構成力など、表現力全般についての力を測る。

一般選抜 D 日程入試【出題意図】

1. 問題文選定理由

この試験問題では、現代社会における「我」のとらえ方や、「我」と教育との関係などについて志願者がどのように考えるのかを問うことにより、本学部が目指すグローバル人材としての資質を測る。

2. 内容理解

「我」が単なるわがままという意味ではなく、自分の意見や考えを表現するものであるということや、さまざまな経験や学習活動と多様な価値観を尊重する筆者の考え方などについて、志願者が正しく理解しているかを問う。

3. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

【解答例】

問1

(ア) かんたい (イ) とっぱこう (ウ) きゅうきょく (エ) にんたい (オ) なっとく

問2

- | | |
|-----------|--|
| ＜同じような姿勢＞ | みんなと一緒にを指向する
自分を世の中に適合させる
自分で考えずに号令に従ってしまう |
| ＜対照的な姿勢＞ | 彼女自身を貫いて生きている
自分の思っていることを表現する
自分の考え、意見を持つ |